

タイ語での二人称表現の使用意識とタイ語教育の課題¹⁾

A fact-finding survey of second-person term usage in Thai and related issues in Thai education programs

スニサー ウィッタヤーパンヤーノン（齋藤）
Sunisa WITTAYAPANYANON (SAITO)

東京外国語大学 世界言語社会教育センター
World Language and Society Education Center, Tokyo University of Foreign Studies

はじめに

1. 調査概要
2. 調査結果・分析
 - 2.1. 二人称表現
 - 2.2. 呼びかけ表現
 - 2.3. インタビュー内容
 - 2.4. 調査結果まとめ
3. タイ語教育における課題

おわりに

キーワード：タイ語、二人称表現、呼びかけ表現、タイ語教育、タイ語での丁寧さ

Key Word : Thai language, second-person term, address term, Thai education, politeness in Thai language

【要旨】

本論文はタイ語における二人称表現の使用意識に関する調査結果・分析をまとめ、タイ語教育での課題を検証するものである。タイ語では人称表現が多様に変化するため、円滑なコミュニケーションを行うためには重要な要素となるが、その使用意識と現在のタイ語教育での説明には乖離がある可能性があるため、本調査を実施した。二人称表現の決定で特に影響力が強いのは、対話者との相対的年齢であり、年上、年下の対話者には親族名称が多用されている一方で、同年代の対話者は親疎などによって、二人称表現がより多様化している。二人称表現の一部について、現行のタイ語教材での説明と使用実態が異なるものもあるため、説明の見直しを検討するとともに、学習の初期段階においては、二



人称表現を決定する基本原理の理解を促す必要もあると考える。外国語教育として織り込むべき人称表現の検証、適切な人称表現の運用を可能とするための教材の開発等が今後の課題となる。

This paper is intended to present the results of a survey and analysis of second-person terms in Thai and to study related issues in Thai education programs. Personal expression is integral for smooth communication in Thai because of the language's inherent diversity. This survey was developed to address the potential discrepancy between these terms' actual usage and their coverage in Thai education programs. The results indicate that the relative age between the speaker and the interlocutor are the predominant factors determining second-person term use, and kin terms are most often used with elder and younger interlocutors. On the other hand, second-person terms for coeval interlocutors are more diversified, indicating intimacy between conversational parties, etc. It may be necessary for learning materials to review the explanations of some second-person terms and develop more efficient methods to teach learners the basic rules of determining proper second-person term use, especially in the early stages of learning, because of its complexity. The selection of person terms appropriate for teaching Thai-as-a-second-language learners and development of learning materials to assist learners in understanding person terms properly are needed to address the educational difficulty of person term use in Thai.

はじめに

タイ語特有の社会文化的要素として、(1)社会的立場の確認、(2)距離を縮める、(3)配慮表現、(4)コミュニケーション・ストラテジー、(5)文体の違い、という 5 つの特徴があるとの分析結果が示され、その中の (1)、(2)、(3)では人称表現²⁾の適切な使用が必要だと指摘されている[スニサー 2017b:240-248]通り、人称表現はタイ語でのコミュニケーションの中で重要な要素である。タイ語の人称表現には人間関係が現れ、相手や状況、及び自身の属性に応じて、それらは多様に変化している。しかしながら、現在のタイ語教育で教えられている人称表現だけでは、タイ語で円滑なコミュニケーションを取るには十分ではない可能性があると考えている。例えば、日本人留学生がタイの大学で先生に対して、現在の日本のタイ語教育で丁寧とされている二人称[khun]を使用していたが、タイ人の先生に対して失礼な印象を与えることになってしまっており、後日、その先生から筆者へ対して、日本での人称表現の教え方について、質問を頂いたことがある。この事例を裏返せば、人称表現は、それらを適切に運用すれば、円滑な人間関係を構築するには、非常に有効なツールであることを意味している。そこで、外国語としてのタイ語教育の中へ人称表現を適切に織り込むため、それらの使用意識に関するアンケート調査を実施し、

本稿はその調査結果の中から相手の注意を引きたいときや、相手に感情的に訴えたい場合[鈴木 1973:146]に使用する呼びかけ表現も含めた二人称表現に絞り、タイ語母国語話者の使用意識を明らかにするものである。

1. 調査概要

今回の調査、2018年9月、タイ国において、タイ語を母語とする580名に対して書面でのアンケート調査を行った。本アンケートでの質問項目は、フォーマル及びカジュアルな場面において、相対的年齢、性別、距離感、社会的立場などが異なる多様なタイプの対話者に対して、自身が使用する一人称表現、二人称表現、三人称表現を選択し回答する方式で実施しており、回答は複数回答も可としている。選択肢以外の人称表現を使用する場合は、「その他」を選択した上で、具体的な語句の回答のあったものを有効回答としてカウントしている。回答者には、自身の名前、性別、年齢、職業、出身地を任意で記入してもらっているが、その結果に基づくと本調査協力者自身の性別の内訳は、社会人は女性163名、男性103名、その他の性別39名の計305名、大学生は女性139名、男性89名、その他の性別47名の計275名となっている。本調査への協力者が所属する組織としては、カシコン銀行、日泰経済協力協会、カセサート大学、タイ商工会議所大学、チェンマイ大学、コーンケン大学、ナコンラチャシーマー・チャパット大学などがあり、大学に関しては、学生と職員の双方から協力が得られた。また、書面でのアンケート調査を補完する目的で、大学生の回答者275名の内、34名にはインタビュー調査を実施している。

本稿は、全体の調査の中から、呼びかけ表現も含めた二人称表現に関する内容に絞って、調査結果をまとめ、分析するものである。社会人と大学生では、それぞれが置かれている環境が異なることから、異なる調査票を用いている。二人称表現でのフォーマルな場面として社会人は職場、大学生は大学とし、カジュアルな場面は共通して街の市場としている。加えて、呼びかけ表現に関する設問もフォーマル、カジュアルな場面で別に用意した。フォーマルな場面として、社会人は仕事で会う人への、大学生は研究調査のインタビュー対象者への呼びかけとし、カジュアルな場面としては食堂での店員への呼びかけとしている。相対的年齢、職業、役職といった社会的立場、性別、そして親疎が異なる様々な対話者を、それらの特性を組み合わせ、二人称表現のフォーマルな場面では22タイプ、カジュアルな場面では30タイプを設定するとともに、呼びかけ表現としてフォーマルな場面では13タイプ、カジュアルな場面では8タイプを設定し、各対話者に対して自身が使用する二人称表現を訊いている。選択式回答の選択肢としては、タイ語文法書“way-yaa-koon thay”[Bandhumedha 2016:23-27]の中で、二人称表現として掲載してある語を中心に選定し提示する他、「その他(要記入)」、「使わない」も選択肢として提示してある。

調査結果を見ていく前に、選択肢として提示した二人称表現について、現在のタイ語教材で説明さ

れている内容について紹介する。6 種類のタイ語教材での説明の内容を抜粋したものが表 1 である。なお、表 1 中の「二」は二人称表現に関する設問の中で、「呼」は呼びかけ表現に関する設問の中でそれぞれ提示した選択肢を意味する。まず[khun]は今回参照した殆どの教材で、一般的かつ丁寧な表現であると説明されている。敬称の[khun]の後に相手の「名前」を意味する[chúuu]を加え、「～さん」の意となる表現も選択肢には加えている。[thəə]は、概ね親しい関係の女性や子どもなどの目下の人に対して使用するインフォーマルな表現という説明がされている。[kɛɛ]は親しい間柄もしくは目下の対話者へ対して使用する語として、[muŋ]は男性が使用する最もインフォーマルな表現として使用するという説明である。[lúuu]や[ʔeŋ] は親しい対話者に対して、[raw]は子どもに対して、そして[naay]は親しい友人に対して使用する表現となっている。親族名称では、「兄・姉」といった意で対象者が年上であることを示す[phii]や、逆に対象者が年下であることを示す「弟・妹」といった意の[nóŋ]に加え、これらの語に名前を意味する[chúuu]と組み合わせた表現である [phii+chúuu]、[nóŋ+chúuu]も二人称表現として使用されていると説明されている教材もある。他にも「おばさん」の意の[páa]や「おじさん」の意の[lun]も、今回参照した教材の一部で二人称表現として取り上げられている親族名称である。元来「ねずみ」を意味する[núu]は、「ねずみ」のように小さい人物、つまりは発話者より年下、特に子どもに対して使用される表現とされている。「ニックネーム」を意味する[chúuu-lên]は、それ程フォーマルではない場面で一人称/二人称表現として使用され、親しさを作り出すとある。[thâan]は強い敬意を示す二人称表現であり、[ʔaa-caan]「先生」、[phûu-cát-kaan]「マネージャー」、[khun mǎŋ]「お医者さん」は職業名称、役職名称が二人称表現となる例としての説明がなされている。

表 1 : 二人称表現の選択肢

	参照教材 ³⁾ での説明	二	呼
khun	a. The general way to say “you”, sounds polite. b. The most general polite term used by men and women to refer to their equals and superiors, and by strangers to address each other in a polite way. c. 相手との間に距離を置く感じ。目上の人に対しても使えるが、親しい間柄ではほとんど使われない。 d. 丁寧に言う場合 e. あなた(二人称の代名詞)、～さん(敬称)	●	●
khun+chúuu	d. khun+相手の名前=～さん	●	
thəə	a. (1)“You” by close female friends, (2)For addressing children, (3) “You” by couples when addressing each other b. Much less formal than [khun]. It is used by both men and women to refer to intimate and younger addressees. c. きみ、あんた。同等あるいは目下の人に対して使用。 d. 女性:親しい友達に対して(対等な立場)	●	●
kɛɛ	a. For addressing close friends, either male or female. May sound rude with people other than friends. b. [kɛɛ] is also used as an inferior second- and third-person pronoun.	●	
muŋ	a. A crude term for “you” b. The most informal second-person pronoun chiefly used by men in a very	●	

	informal situation.		
lúuu	f. 男性: 親しい相手や対等な相手に対して。	●	
?eŋ	f. 親しい相手や年下の人に対して。	●	
raw	a. For addressing children. b. When used as a second-person pronoun, it imparts affection in an appropriate situation as in the case of a teacher talking to young students.	●	
naay	a. “You” by close male friends. b. Commonly used by young male and female speakers d. 親しい友達に対して(対等な立場)	●	●
phii (親族名称)	a. Used to address a person who is older than you are but from the same generation. b. Used not only in the real family structure, but also in a fictitious family structure as well . Use for elder sibling. Regardless of sex. The use of this kin terms instead of pronouns creates a decidedly more informal and friendlier atmosphere. d. 自分より年下に対して	●	●
phii+chúuu	d. 自分より年上に対して。年上の人の名前に付ける敬称。	●	
nóŋ (親族名称)	a. Used to address a person who is younger than you are but from the same generation. b. Used not only in the real family structure, but also in a fictitious family structure as well . Use for younger sibling. Regardless of sex. The use of this kin terms instead of pronouns creates a decidedly more informal and friendlier atmosphere. d. 自分より年下に対して	●	●
nóŋ+chúuu	d. 自分より年下に対して	●	
nũu	a. For addressing children. b. This word is often employed to refer to younger conversation participant. It is used as an addressee reference term by their older conversational partner. The use of [nũu], however , is not restricted for reference to children.	●	●
chũu-lên (固有名詞)	b. The use of nicknames and abbreviated given names as first- and second person pronouns in a less formal situation. Such a use of names creates intimacy. d. 自分より年下または親しい友達に対して(対等な立場)	●	
pâa (親族名称)	d. 女性の年配の人に対して(親しみを込めたカジュアルなニュアンス)。呼びかけの言葉として。「おばさん」の意。		●
luŋ (親族名称)	d. 男性の年配の人に対して(親しみを込めたカジュアルなニュアンス)。呼びかけの言葉として。「おじさん」の意。		●
thâan	a. Respectful b. Used as a pronoun showing high respect towards the addressee of a higher rank such as a monk or high official. c. あなたさま。敬意を表すべき人に対して使います。		●
?aa-caan (職業名称)	b. University students almost always use [?aa-caan] as the second-person reference term when talking to their teachers. d. 敬称として。敬称と名前の組み合わせで使用。【筆者補足】occupational titles 「先生」の意。		●
phũu-cât-kaan (役職名称)	d. 敬称として使用。【筆者補足】occupational titles 「マネージャー」の意。		●
khun mǎo (職業名称)	b. Occupational title [mǎo] is employed as second-person reference term and may be prefixed with [khun], as in [khun mǎo] d. 敬称と名前の組み合わせで使用。【筆者補足】occupational titles 「お医者さん」の意。		●

2. 調査結果・分析

人称表現の選択に影響をもたらす要素として、対話者の年齢、対話者の性別、そして対話者との関係性などがある[Iwasaki and Ingkaphriom 2009:49]とされているが、今回の調査結果の集計に当たっては、次に挙げる 7 つの視点を複数組み合わせる傾向を観察している。7 つの視点とは、①自身の性別(男性/女性)、②自身の年齢(社会人/大学生)、③対話者の年齢(年上/同年代/年下、年上/年下については、複数の年齢幅設定)、④対話者との親疎(親しい/親しくない、二人称表現のカジュアルな場面のみ既知/未知も有り)、⑤対話者の性別(男性/女性)、⑥対話者の社会的立場、そして⑦場面(フォーマル/カジュアル)となる。

今回の調査では、性別として「その他」に分類される LGBT/SOGI グループについても、今後の予備調査として分析を試みたが、詳細な性別が不明瞭であったり、非公開としている回答が多く、有効な統計データを得られず、今回の対象からは除外することとする。また、選択肢として「その他」を選択しながら、具体的な人称表現の記入が無かったものについては、無効回答とする。

本稿では、スペースの関係より、詳細な調査結果を全て掲載することは困難なため、外国語としてのタイ語教育の観点で着目すべき結果を観察できた部分を中心に掲載するものとする。以降の集計結果を示す表中の掲載語は、各回答の中で、原則、上位 3 語までとする。但し、回答率が 20%を超えるものが 4 語以上ある場合は全て「主要回答」として掲載する一方、回答率が 10%に満たないものは、仮に 3 位以内であっても掲載しない。

2.1. 二人称表現

まずフォーマルな場面での結果から見ていくこととするが、本調査の集計として先行して行った一人称表現の結果の中で観察出来た特徴として、一人称表現の選択において、自身の性別と対話者との相対的年齢差の影響が特に大きかった[スニサー 2019:113]ことから、二人称表現についても、まず相対的年齢差の視点での集計結果から見ていくこととするが、フォーマルな場面での結果をまとめたものが表 2 となる。

表 2：二人称表現(フォーマル)：対話者の年齢

発話者		対話者	主要回答						
女性	社会人	年上	phîi+chûuu	67%	phîi	21%			
		同年代	chûuu-lên	49%	thəə	21%	kεε	10%	
		年下	nóɔŋ+chûuu	38%	chûuu-lên	35%	nóɔŋ	19%	
	大学生	年上	phîi+chûuu	60%	phîi	60%			
		同年代	muɯŋ	39%	chûuu-lên	38%	kεε	35%	thəə 22%
		年下	nóɔŋ+chûuu	38%	nóɔŋ	35%	chûuu-lên	34%	
男性	社会人	年上	phîi	48%	phîi+chûuu	44%			
		同年代	chûuu-lên	43%	thəə	11%	muɯŋ	11%	
		年下	chûuu-lên	34%	nóɔŋ+chûuu	27%	nóɔŋ	22%	
	大学生	年上	phîi	57%	phîi+chûuu	43%			
		同年代	muɯŋ	43%	chûuu-lên	30%	kεε	18%	
		年下	nóɔŋ	29%	chûuu-lên	26%	nóɔŋ+chûuu	21%	

ここで見られた特徴として、まず着目すべき点としては、対話者が年上の場合は[phîi]、年下の場合は[nóɔŋ]といった親族名称を多用している点である。名前[chûuu]を付ける場合、付けない場合もあるが、年上、年下の全てのグループにおいて、半数以上の比率で親族名称が用いられている結果となっている。同年代に対しては、[chûuu-lên]が全てのグループで等しく多用され、汎用性の高さが伺える他、[kεε]、[thəə]も一定の使用率が見られる。一方で、大学生の間では同年代に対しては、男性、女性問わず、[muɯŋ]が最も多く使用されていることが明らかとなった。また、発話者の性別の違いについて着目してみると、年上と年下の対話者に対して使用する比率の違いは見られるものの、使用する表現自体には大きな差は見られない一方で、同年代の対話者については一部差が見られた。社会人、大学生とも女性の発話者の方が[thəə]を使用する比率が高いのに対して、[muɯŋ]は男性の方が多く使用している。さらに発話者の世代間の差を見ると、[muɯŋ]と[kεε]は、男性・女性共通で、大学生での使用率が高いことが分かる。

次に対話者の年齢グループの中での親疎による違いを見ていくが、同一語の使用率において、対話者の年齢グループ内での親疎の違いにより 10 ポイント以上の差が表れた部分のみを抽出して表 3 に掲載している。

表3：二人称表現(フォーマル)：対話者との親疎

発話者		対話者		主要回答					
女性	社会人	年上	親しい	phii+chuuu	73%	phii	18%		
			親しくない	phii+chuuu	62%	phii	23%		
	同年代	親しい	chuuu-lên	51%	keε	17%	thəə	15%	
		親しくない	chuuu-lên	47%	thəə	28%			
	大学生	年上	親しい	phii+chuuu	69%	phii	38%		
			親しくない	phii	54%	phii+chuuu	52%		
	同年代	親しい	muuŋ	69%	chuuu-lên	35%	keε	33%	
		親しくない	chuuu-lên	42%	keε	36%	thəə	33%	
男性	社会人	同年代	親しい	chuuu-lên	44%	muuŋ	19%	thəə	10%
			親しくない	chuuu-lên	43%	thəə	12%	khun+chuuu	11%
	大学生	年上	親しい	phii	50%	phii+chuuu	49%		
				親しくない	phii	63%	phii+chuuu	37%	
		同年代	親しい	muuŋ	65%	chuuu-lên	29%	keε	15%
				親しくない	chuuu-lên	31%	keε	21%	muuŋ
年下	親しい	chuuu-lên	29%	nóŋ+chuuu	23%	muuŋ	22%		
		親しくない	nóŋ	37%	chuuu-lên	22%	nóŋ+chuuu	18%	

「女性・社会人・先輩」、「女性・大学生・先輩」、「男性・大学生・先輩」で顕著にみられる通り、相手が親しい関係である場合は、親族名称[phii]だけでなく、対話者の「名前」[chuuu]も一緒に使用する比率が大きく高まっていることが分かる。また、[muuŋ]については、親しい人に多く使用されていることが、「女性・大学生・同年代」、「男性・大学生・同世代」で特に顕著に表れている。また、「女性・社会人・同年代」を見ると [thəə]は親しくない人へ多く使われる傾向であることが分かる。

次に対話者の年齢グループ内での対話者の性別による差異を見ていくが、対話者の性別の違いで10ポイント以上差があるグループは見られなかった。表4では親疎の差で7ポイント以上の差が表れた部分のみを抽出したもののだが、その中で違いが最も出ているのが、[muuŋ]、[thəə]である。[thəə]は「女性・大学生・同年代」で7ポイント、「男性・大学生・同年代」で8ポイントと、それぞれ女性の対話者に対して使う比率が高い。逆に[muuŋ]については、「男性・社会人・同年代」で6ポイント、「男性・大学生・同年代」で8ポイントと、男性の対話者に対して使う比率が高い結果となっている。

表 4 : 二人称表現(フォーマル) : 対話者の性別

発話者		対話者		主要回答							
女性	大学生	同年代	同性	muaŋ	40%	chûuu-lên	39%	keɛ	37%	thəə	25%
			異性	muaŋ	38%	chûuu-lên	38%	keɛ	32%	thəə	18%
男性	社会人	同年代	同性	chûuu-lên	42%	muaŋ	14%			thəə	7%
			異性	chûuu-lên	45%	thəə	15%			muaŋ	8%
	大学生	同年代	同性	muaŋ	47%	chûuu-lên	30%	keɛ	14%		
			異性	muaŋ	39%	chûuu-lên	30%	keɛ	22%		

フォーマルな場面で最後に見ていくのが、対話者の社会的立場の影響である。表 5 で示している通り、「学長」や「重役」といった立場が非常に高い対話者に対しては、各グループとも役職名や[khun](+名前 [chûuu])が比較的多く使用されているという結果が見られた。一方、上司や大学職員といった立場が比較的近い目上の人に対しては、年上への親族名称である[phii]が多く使われており、「女性・社会人・上司」、「女性・大学生・大学職員」、「男性・大学生・大学職員」で見られる通り、親しい関係であると名前 [chûuu]も添える傾向が高まっている。また、重役についても、親しい関係であれば、[phii+chûuu]が多用されているということも注目すべき点である。そして、大学生が先生に対しては、職業名である「先生」を意味する単語類の使用が圧倒的である。また、「女性・大学生・大学職員」、「男性・大学生・学長」では二人称表現を「使わない」という回答が上位に見られることも注目すべき点である。

表 5 : 二人称表現(フォーマル) : 対話者の社会的立場

発話者		対話者		主要回答				
女性	社会人	上司	親しい	phii+chûuu	64%	phii	12%	
			親しくない	phii+chûuu	49%	phii	13%	khun+chûuu 13%
		重役	親しい	phii+chûuu	32%	khun+chûuu	27%	職業/役職名 17%
			親しくない	khun+chûuu	33%	職業/役職名	18%	phii+chûuu 15%
	大学生	学長	---	職業/役職名	34%	使わない	22%	khun+chûuu 17%
			先生	親しい	職業/役職名	86%		
			親しくない	職業/役職名	85%			
		大学職員	親しい	phii+chûuu	39%	phii	36%	使わない 14%
親しくない	phii		49%	phii+chûuu	18%	使わない 21%		
男性	社会人	上司	親しい	phii+chûuu	33%	phii	31%	職業/役職名 20%
			親しくない	phii+chûuu	29%	職業/役職名	22%	phii 18%
		重役	親しい	職業/役職名	22%	khun+chûuu	19%	phii+chûuu 17%
			親しくない	職業/役職名	23%	khun+chûuu	23%	khun 19%
	大	学長	---	職業/役職名	48%	khun	24%	使わない 13%

学生	先生	親しい	職業/役職名	62%	khun	12%		
		親しくない	職業/役職名	63%	khun	13%		
	大学職員	親しい	phii	42%	phii+chuuu	31%	khun	13%
		親しくない	phii	43%	phii+chuuu	19%	khun	13%

次にカジュアルな場面を想定した設問に対する回答結果を見ていくが、分析方法はフォーマルな場面と同様、まずは対話者の年齢グループの違いから見ていくこととする。留意点として、市場^{いちば}という場面においては、より多様な人と接する機会があることから、年齢グループはフォーマルな場面よりも細分化した設定している。集計結果は表 6 の通りとなる。

表 6 : 二人称表現(カジュアル) : 対話者の年齢

発話者		対話者	主要回答				
女性	社会人	5~10 才年上	phii+chuuu	46%	phii	39%	
		20~30 才年上	phii+chuuu	38%	phii	30%	その他親族表現 20%
		同年代	chuuu-lên	41%	thəə	29%	khun 12%
		1~5 才年下	nóəŋ	33%	chuuu-lên	28%	nóəŋ+chuuu 23%
		20~30 才年下	nóəŋ	30%	nóəŋ+chuuu	24%	chuuu-lên 22%
	大学生	5~10 才年上	phii	60%	phii+chuuu	46%	
		30~40 才年上	その他親族表現	60%	phii	22%	phii+chuuu 14%
		同年代	thəə	38%	chuuu-lên	31%	kεε 26%
		1~5 才年下	nóəŋ	48%	nóəŋ+chuuu	34%	chuuu-lên 23%
		15 才以上年下	nóəŋ	46%	nóəŋ+chuuu	34%	chuuu-lên 21%
男性	社会人	5~10 才年上	phii	45%	phii+chuuu	39%	khun 11%
		20~30 才年上	その他親族表現	39%	phii	39%	phii+chuuu 37%
		同年代	chuuu-lên	34%	khun	24%	thəə 13%
		1~5 才年下	nóəŋ	28%	nóəŋ+chuuu	23%	chuuu-lên 22%
		20~30 才年下	nóəŋ	47%	nóəŋ+chuuu	38%	chuuu-lên 35%
	大学生	5~10 才年上	phii	49%	phii+chuuu	33%	khun 10%
		30~40 才年上	phii	32%	その他親族表現	24%	phii+chuuu 0%
		同年代	muəŋ	23%	kεε	22%	thəə/chuuu-lên 17%
		1~5 才年下	nóəŋ	32%	chuuu-lên	17%	nóəŋ+chuuu 15%
		15 才以上年下	nóəŋ	41%	nóəŋ+chuuu	21%	chuuu-lên 14%

カジュアルな場面での大きな特徴としては、フォーマルな場面と同様、対話者が年上、同年代、年下であるかで、使用する二人称表現が大きく異なる点である。さらに、年上の対話者については、年齢差に応じて、使用する二人称表現が異なるという点も特徴的である。社会人であれば 20~30 才年上、大学生であれば 30~40 才年上といった大きく年齢が離れた対話者に対しては、選択肢にはない「その他」

を選び「おばさん/おじさん」を意味する[pâa/luŋ]などの親族名称を使用すると「女性・社会人」で 20%、「女性・大学生」で 60%、「男性・社会人」で 39%、「男性・大学生」で 24%が回答している。また、発話者の性別、及び年代による違いを見ると、フォーマルな場面と同じく、対話者が同年代の場合に限って選択する表現自体にも大きな違いが現われる。[thəə]は社会人、大学生とも女性の使用率が大きく高く、[kɛɛ]は男性・女性とも大学生のみの使用率が高く、逆に社会人のみで使用率が高いのは[khun]となる。[muŋ]は男性・大学生でのみ使用率が高い結果となっている。

次にカジュアルの場面での親疎の違いであるが、前述の通り市場という環境では、より多様な人と接する機会があることから、対話者のカテゴリーも、「親しい」、「親しくない」に加え、「知らない」と3段階の設定としている。

表 7：二人称表現(カジュアル)：対話者との親疎

発話者		対話者		主要回答				
女性	社会人	5~10 才年上	親しい	phii+chúu	68%	phii	30%	
			親しくない	phii+chúu	50%	phii	41%	
			知らない	phii	46%	phii+chúu	20%	khun 18%
		20~30 才年上	親しい	phii+chúu	57%	その他親族表現	27%	phii 22%
			親しくない	phii+chúu	44%	phii	30%	その他親族表現 21%
			知らない	phii	38%	khun	23%	その他親族表現 13%
	同年代	親しい	chúu-lên	60%	thəə	23%	kɛɛ 17%	
		親しくない	chúu-lên	52%	thəə	30%		
		知らない	thəə	35%	khun	29%	chúu-lên 10%	
	大学生	1~5 才年下	親しい	chúu-lên	47%	nóŋ+chúu	33%	nóŋ 18%
			親しくない	chúu-lên	34%	nóŋ+chúu	30%	nóŋ 29%
			知らない	nóŋ	52%	khun	17%	
20~30 才年下		親しい	chúu-lên	35%	nóŋ+chúu	34%	nóŋ 17%	
		親しくない	nóŋ+chúu	29%	chúu-lên	27%	nóŋ 26%	
		知らない	nóŋ	47%	nũu	18%	khun 11%	
男	社	5~10 才年上	親しい	phii+chúu	70%	phii	47%	
			親しくない	phii	62%	phii+chúu	50%	
			知らない	phii	72%	phii+chúu	18%	khun 18%
		30~40 才年上	親しい	その他親族表現	67%	phii+chúu	20%	phii 18%
			親しくない	その他親族表現	68%	phii	18%	phii+chúu 15%
			知らない	その他親族表現	47%	phii	29%	khun 18%
	同世代	親しい	chúu-lên	45%	muŋ	38%	kɛɛ 31%	
		親しくない	thəə	40%	chúu-lên	38%	kɛɛ 29%	
		知らない	thəə	53%	kɛɛ	18%	chúu-lên 11%	
	1~5 才年下	親しい	nóŋ+chúu	59%	nóŋ	48%	chúu-lên 21%	
		親しくない	nóŋ	65%	nóŋ+chúu	60%	chúu-lên 34%	
		知らない	nóŋ	83%	nóŋ+chúu	18%	thəə 13%	
15 才以上年下	親しい	nóŋ+chúu	59%	nóŋ	52%	chúu-lên 40%		
	親しくない	nóŋ+chúu	61%	nóŋ	56%	chúu-lên 32%		
	知らない	nóŋ	78%	nũu	20%	nóŋ+chúu 17%		

性 会 人	20~30 才年上	親しくない	phii	47%	phii+chuuu	43%	khun	11%
		知らない	phii	46%	khun	27%	phii+chuuu	23%
		親しい	phii+chuuu	50%	その他親族表現	43%	phii	35%
		親しくない	その他親族表現	46%	phii	40%	phii+chuuu	39%
		知らない	phii	42%	その他親族表現	30%	phii+chuuu	21%
		同年代	親しい	chuuu-lên	51%	muuη	24%	khun
	1~5 才年下	親しくない	chuuu-lên	40%	khun	17%	thəə	14%
		知らない	khun	46%	thəə	16%	phii	13%
		親しい	nóη+chuuu	34%	chuuu-lên	30%	nóη	21%
		親しくない	chuuu-lên	29%	nóη	28%	nóη+chuuu	28%
		知らない	nóη	35%	khun	33%		
		20~30 才年下	親しい	nóη+chuuu	34%	nóη	30%	chuuu-lên
大 学 生	5~10 才年上	親しくない	nóη	33%	nóη+chuuu	26%	chuuu-lên	25%
		知らない	nóη	36%	khun	24%	chuuu-lên	12%
		同世代	親しい	phii+chuuu	54%	phii	40%	
	30~40 才年上	親しくない	phii	53%	phii+chuuu	31%		
		知らない	phii	53%	khun	20%	phii+chuuu	13%
		親しい	phii+chuuu	32%	その他親族表現	25%	phii	25%
	同世代	親しくない	phii	28%	その他親族表現	24%	phii+chuuu	24%
		知らない	phii	42%	khun	22%	その他親族表現	22%
		親しい	muuη	51%	chuuu-lên	24%	kεε	22%
	1~5 才年下	親しくない	kεε	25%	chuuu-lên	22%	thəə	21%
		知らない	naay	24%	thəə	22%	khun/kεε	19%
		親しい	nóη	26%	chuuu-lên	23%	nóη+chuuu-lên	22%
15 才以上年下	親しくない	nóη	36%	chuuu-lên	22%	nóη+chuuu-lên	16%	
	知らない	nóη	34%	khun	16%			
	親しい	nóη	35%	nóη+chuuu	31%	chuuu-lên	21%	
15 才以上年下	親しくない	nóη	42%	nóη+chuuu	23%	chuuu-lên	17%	
	知らない	nóη	48%	khun	15%			

ここで現れた特徴としては、前述のフォーマルな場面と同様、ほとんどのグループで対話者との距離が近い程、固有名詞を含んだ表現が増加傾向にあることである。また、年齢が離れた年上の対話者に使用する「おばさん/おじさん」を意味する[pâa/lun]などの親族名称は、グループ間で多少のバラつきは見られるが、距離が近い人の方が使い易いという傾向も伺い知ることができる。また、全グループの同年代対話者の部分で顕著に表れているが、[thəə]は親しい対話者よりも親しくない/知らない対話者へ多用されている。他にも[kεε]については、社会人の女性の結果を見ると同年代の親しい対話者へ使用される表現ということになるが、大学生の男性・女性を見ると、親しい対話者だけでなく、親しくない対話者へも同様に使用されていることが分かる。

最後にカジュアルな場面での対話者の性別による差異についても確認したが、フォーマルの場面と同様、同世代を除き、対話者の性別による差はほとんどない結果であったため、同世代のみの結果を抜き出したのが、表 8 である。

表 8 : 二人称表現(カジュアル) : 対話者の性別

発話者		対話者		主要回答							
女性	社会人	同世代	同性	chûu-lên	41%	thəə	32%	khun	12%		
			異性	chûu-lên	40%	thəə	27%	khun	12%		
	大学生	同世代	同性	thəə	36%	chûu-lên	27%	kɛɛ	23%	muɯŋ	13%
			異性	thəə	29%	chûu-lên	27%	kɛɛ	21%	muɯŋ	12%
男性	社会人	同世代	同性	chûu-lên	34%	khun	24%	muɯŋ	12%	thəə	8%
			異性	chûu-lên	34%	khun	24%	thəə	18%	muɯŋ	7%
	大学生	同世代	同性	muɯŋ	24%	naay	24%	kɛɛ	19%	thəə	5%
			異性	thəə	27%	kɛɛ	24%	muɯŋ	21%	naay	7%

ここで着目したい点としては、全グループとも[thəə]を使う場合の対話者は女性が多く、発話者が男性の場合、社会人、大学生ともその傾向がより顕著に表れている点である。逆に「男性・大学生」の24%が同性に使用するという[naay]は、女性にはあまり使われないという結果となっている。

2.2. 呼びかけ表現

続いて本項では、二人称表現の中でも、対話者に呼びかける際に使用する表現についての調査結果を見ていくこととする。

フォーマルな場面での呼びかけ表現については、対象として職業や社会的な立場を具体的に設定した設問としている。タイ語では、職業名や役職名が呼びかけ表現として使用されることもあり、フォーマルな場面では特にこれらの表現の使用意識も観察することがあると考えたためである。フォーマルな場面における呼びかけ表現の調査結果をまとめたものが表 9 となる。

表 9 : 呼びかけ表現(フォーマル)

発話者		対話者		主要回答					
女性	社会人	上役		khun	51%	phûu-càt-kaan	25%	phîi	16%
		社員		khun	60%	phîi	36%		
		顧客		khun	79%	phîi	16%		
		大学の教員		ʔaa-caan	92%				
		医者		khun mǎə	93%				
		社長		khun	65%	thâan	25%		
		大僧正		thâan	61%	その他	32%		
		大学	人事マネージャー		khun	41%	phûu-càt-kaan	33%	phîi
		役所の職員		khun	47%	phîi	46%	使わない	12%

	生	大学の教員	ʔaa-caan	85%				
		学長	ʔaa-caan	38%	thâan	38%	khun	17%
		医者	khun mǝǝ	88%				
		社長	khun	63%	thâan	23%		
		大僧正	thâan	64%	その他	25%		
男性	社会人	上役	khun	47%	phûu-càt-kaan	26%	phîi	18%
		社員	khun	66%	phîi	37%		
		顧客	khun	76%	phîi	18%		
		大学の教員	ʔaa-caan	81%	khun	13%		
		医者	khun mǝǝ	87%				
		社長	khun	50%	thâan	27%	phûu-càt-kaan	10%
		大僧正	thâan	58%	その他	41%		
	大学生	人事マネージャー	khun	40%	phîi	32%	phûu-càt-kaan	19%
		役所の職員	phîi	48%	khun	41%		
		大学の教員	ʔaa-caan	76%	khun	10%		
		学長	ʔaa-caan	43%	thâan	15%	khun	10%
		医者	khun mǝǝ	75%	khun	11%		
		社長	khun	42%	thâan	32%	phîi	19%
		大僧正	thâan	56%	その他	13%	ʔaa-caan	11%

ここで見られた大きな特徴としては、[khun]の汎用性が非常に高いということである。本章で見えてきた通り、二人称表現としての[khun]は、市場のようなカジュアルな場面で知らない人に対しては広く使われているものの、それ以外ではあまり使用率は高くなかったが、呼びかけ表現となるとその使用率は大きく高まる結果となった。また、教員や医者といった職業においては、代名詞代用表現となる職業名称を使用することも明らかとなった。最高位の敬意を表す[thâan]は、社長や学長、そして大僧正といった非常に社会的立場が高い人に使用されているが、各グループとも大僧正の方が大きく使用率が高く、仏教的価値観が世俗的なものを上回っているというタイ社会特有の文化的特徴を示唆している可能性がある。また、各グループの大僧正の回答にある「その他」は方言など全て僧侶を意味する様々な表現の回答の集合体となっており、僧侶という社会的立場を示す代名詞代用表現は僧侶にも多く使用されることが確認できた。

次にカジュアルな場面での呼びかけ表現であるが、このケースでは食堂という限られた場面設定であるため、対話者との相対的年齢に焦点を当てた設問設計としている。

表 10 : 呼びかけ表現(カジュアル)

発話者		対話者	主要回答					
女性	社会人	5～10 才年上	phii	80%				
		20～30 才年上	phii	59%	pâa/luŋ	26%	khun	10%
		同年代	nóŋ	30%	khun	23%	使わない	16%
		年下	nóŋ	87%				
	大学生	5～10 才年上	phii	90%				
		30～40 才年上	pâa/luŋ	55%	phii	38%		
		同年代	phii	44%	使わない	23%	thəə	19%
		年下	nóŋ	69%	phii	15%	使わない	13%
男性	社会人	5～10 才年上	phii	78%	khun	16%		
		20～30 才年上	phii	58%	pâa/luŋ	24%	khun	16%
		同年代	khun	32%	nóŋ	25%	phii	21%
		年下	nóŋ	79%	khun	11%		
	大学生	5～10 才年上	phii	74%	khun	16%		
		30～40 才年上	phii	54%	pâa/luŋ	28%	khun	15%
		同年代	phii	37%	khun	22%	使わない	17%
		年下	nóŋ	42%	phii	26%	khun	18%

ここで注目したいのは、年上の対話者はもちろんのこと、同年代、年下の対話者に対しても[phii]を使用している点である。これはタイ語本来の使い方としては誤用となるが、対話者が食堂の従業員であり、見た目だけでは発話者との年齢の相関関係が不明瞭なことも多く、その場合は年上へ使用する表現、つまりは敬意を示す表現となる[phii]を使用することで、円滑なコミュニケーションを試みているものと考えられる。また、「使わない」という回答も、各グループの同年代や年下の対話者に対していくつか見られるが、これも同様に相対的年齢の不明瞭さに起因している可能性がある。また、年齢が大きく離れた対話者の場合、二人称表現のカジュアルな場面同様、「おばさん/おじさん」を意味する[pâa/luŋ]の使用率が高い結果となっている。

2.3. インタビュー内容

本項では大学生 34 名に行ったインタビュー調査の中で、二人称表現に関わるものをいくつか紹介したい。

最も多かった意見としては、対話者の年齢と名前が分からない場合に、二人称表現の選択に困った経験があるということである。そのため、そういったケースでは、失礼にならないように二人称表現を省略、つまりゼロ代名詞の形で対話を進める他、呼びかけの時は「すみません」の意の[thòot ná khá?/khráp]で済ませているということである。また、年上の対話者の年齢に応じて、「兄/姉」を意味する[phii]と「お

ばさん/おじさん」を意味する[pâa/luŋ]の使い分けにも苦慮しているという意見も多く聞かれた。また、例えば教師、医師、マネージャー、大工、僧侶の位などの職業や役職が確認できた場合は、敬意を表すためには人称代名詞ではなく、その職業名や役職名を代名詞代用表現として使うべきであるという意見があった。

表現の心地好さという点についても、多くの意見が出た。例えば、職業名称などを二人称表現として使用する場合も、職業名称に加え、対話者に応じて[khun]などの敬称や[phii]などの親族名称、そしてニックネーム[chúuu-lên]などを複数組み合わせると心地好さが増すという声があった。また、心地好いもしくは距離が近いと感じるのは、各個人の「ニックネーム」である[chúuu-lên]や目上の人から[nóŋ]や「子ども」を意味する[lúuk]を使ってもらった場合のことである。一方で、年上や親しくない対話者に対しての二人称表現として[muŋ]を使うことは非常に不適切と感じる他、[khun]、[thəə]、[kɛɛ]を使用すると対話者との距離を感じるという意見もあった。

他にも地方の大学生からは、方言は公の場では対話者の出身地か不明な限りは使用しないという意見があるとともに、方言での呼びかけ表現は共感が生まれ安心感があるという回答もあったが、実際に今回の書面での調査結果の中にもいくつかの方言の回答も見られた。

タイ語を母語としない人たちという点でも意見を訊いてみたが、[khun]は丁寧過ぎて距離を感じてしまう一方、[thəə]や[chúuu-lên]を適切な文脈で使用する人はタイ語能力が非常に高い印象を持つとの声も聞かれた。

2.4. 調査結果まとめ

今回の調査結果から、二人称表現の選択において影響力が最も強い要素は、対話者との相対的年齢であると言うことができると考えられる。対話者が年上、年下であることが明確である場合、発話者の性別や年齢、そしてフォーマル/カジュアルといった場面設定を問わず、最も選択される表現は[phii]、[nóŋ]といった親族名称で、さらに対話者との距離が近い場合は、そこに名前やニックネームなどの固有名詞も加えることもある。さらにカジュアルな場面において、年齢が大きく離れた対話者に対しては「おばさん/おじさん」を意味する[pâa/luŋ]という親族名称も多く用いられている。一方で、対話者が同年代になると、発話者の性別や年齢、対話者の性別、対話者との親疎、そして場面設定が複雑に反映されることになる。例えば、[muŋ]は発話者が若い世代の男性と女性が親しい男性の対話者に対して最も使用する表現であり、[thəə]はあまり親しくない女性の対話者に対して女性だけでなく男性も使用する表現と言うことができる。また[kɛɛ]については、親しい人へだけでなく、親しくない/知らない同年代の対話者にも同様に使用されている。

呼びかけ表現においても、対話者との相対的年齢の影響力は強く、[phii]、[nóŋ]が多用されることに加え、二人称表現では使用されるケースは限られている[khun]が広範囲で選択されることが明らかに

なった他、相対的年齢が不明瞭の場合、失礼にならないようにゼロ代名詞での対話や、対話者が年上であることを示す[phii]を例え同年代や年下と思われる対話者へも使用しているという結果も見ることができた。

また、「先生」や「医者」など、一部の職業や役職については、二人称表現や呼びかけ表現として、職業名や役職名を使用することが最も適切であるということも確認できたものと考えている。

3. タイ語教育における課題

今回の調査を通して、タイ語母語話者の二人称表現の使用意識を明らかにすることを試みたが、その結果と参照した6種類のタイ語教材での説明内容を照らし合わせてみると、いくつかの点で課題があるように思われる。

[khun]について、マラーシー&村上[2014:21]では、[khun]を使うとよそよそしい感じになる場合が多いため、相手に冷たい印象を与えたり、相手と距離をおきたい場合にあって用いられたりすることもあるとの説明が補足的にコラムの中ではあるものの、現在の教材では丁寧な最も一般的な表現と説明されているものが多い。しかしながら、[khun]は二人称表現としてはあまり使用されず、状況によっては逆に相手が心地よく感じないこともあり得る。[thəə]はインフォーマルな二人称表現で、目下や親しい対話者へ使う表現といった説明であるが、実際には親しくない/知らない人に使うことが多い。一部の教材に説明はあるものの、対話者は女性が主となることも説明として加えておくべきかと思われる。[kɛɛ]についてもインフォーマルで、親しい関係に使用されるものと説明されているが、実際には知らない同年代の対話者にも使用されている。そして、[phii]、[nɔ́ɔŋ]、[pâa/luŋ]といった親族名称や「ニックネーム」の [chúuu-lên]、特定の職業での職業名などは、二人称表現もしくは呼びかけ表現としての使用率は高いものの、今回参照した教材で見た限りにおいては、ニュアンスとして最も近い日本語訳と簡単な説明に止まるものが多く、これらの表現を学習者が二人称表現として適切に運用していくには今の説明では不十分である可能性が高い。また、二人称表現の選択基準は特に同年代において、非常に複雑であるため、単に個々の表現の意味を断片的に教えるのだけではなく、例えば以下のようにタイ語における二人称表現の選定基準/プロセスを段階的に示すことで、タイ語学習者がより適切に二人称表現を運用していくことが可能になるのではと思われる。

例)タイ語の二人称表現選定基準/プロセス(案)

(1) 対話者の年齢が明らかな場合

- ・ 年上=[phii]、年下=[nɔ́ɔŋ] を使用
- ・ さらに対話者と親しい場合、もしくは親しくなりたい場合、[chúuu(-lên)]も使用
- ・ インフォーマルな場面で、かなり年齢が上の人に対しては[pâa/luŋ]も使用可

(2) 対話者が同年代の場合

- [chúuu-lên] : 使用範囲が最も広く、誰に対しても使用可
- [kεε] : 大人は親しい対話者へ使用するが、若者は親疎に関係なく幅広く使用
- [thəə] : 親しくない/知らない女性に対して比較的多く使用
- [khun] : 知らない人などに使用する堅苦しい表現
呼びかけ表現としては、フォーマル/カジュアルな場面で幅広い対象に使用可
- [muuŋ] : 少々乱暴な言葉で、若者が仲間内で使用

(3) 対話者が以下の職業/役職の場合は、職業名/役職名を使用

- ・ 教職、医者、マネージャー、僧侶 など
- ・ 呼びかけ表現としても使用可

(4) 特殊表現

- [tháan] : 高僧や大企業のトップなど、社会的立場が極めて高い人に対して使用

おわりに

今後の展望、課題として、本調査結果に基づく、二人称表現のタイ語教育への反映という点では、大きく 2 点あると考えている。まず、1 点目は、外国語教育として教えるべき二人称表現の検証である。例えば、[muuŋ]は若者の間では使用頻度が高いものの、相手によっては大変失礼な表現となるため、現時点では推奨し難い二人称表現と筆者は見做している。教材での説明に止める二人称表現、及び教材の例文に織り込み実践的な運用につなげていく二人称表現は、慎重に選別していく必要があるとともに、[khun]のように二人称表現と呼びかけ表現の説明も分けて検討していく必要もあると考える。さらに、親族名称や職業名/役職名などの代名詞代用表現についても、全てが使用可能な訳ではなく、二人称表現と呼びかけ表現として使用可能な表現の調査、検証も行っていく必要があると考えている。2 点目は、二人称表現を場面、及び対話者に応じて適切に使い分けることを可能とする教材の開発である。学習者が実際の運用につなげていくためには、各二人称表現の説明内容や方法を見直すとともに、適切な二人称表現の運用を示した多様な例文を教材の中に織り込む方法が良いのではと考える。他にも、二人称表現としての使用はあまりない一方で、呼びかけ表現として汎用性の高い[khun]の使用方の具体的な説明や前章で例示したような二人称表現の選定基準やプロセスも織り込んだ方が良いのではと思われ、今後の教材開発ではそういった点にも配慮する必要がある。これら 2 点の検証をより効果的に行っていくためにも、英語、日本語以外のタイ語教材も含め、参照する教材の幅をより拡大し、現状の考察や好事例の分析等を今後深める必要がある。

他にも、本調査結果の中で、まだ検証を行っていない三人称表現の集計・分析に加え、人称表現を省略したゼロ代名詞の使用実態についても調査を行う必要があると考えている。また、ヨーロッパ言語

共通参照枠(CEFR)に類する基準をタイ語教育でも確立していくことは大きな課題である[スニサー 2017a:184]が、その中の到達度目標の 1 つとして人称表現の運用能力についても、織り込む必要があると考えている。

注

- 1) Acknowledgements; This work was supported by JSPS KAKENHI Grant Numbers JP18H00686 and JP17H02331. My gratitudes are due to Assoc. Prof. Dr. Bussaba Banjonmani, and Asst. Prof. Dr. Oradol Kaewprasert, Asst. Prof. Walaiporn Kanjanakroon, Dr. Winai Jamornsuriya, Ms .Patra Phamornsinsinlatham and Ms. Somjay Wattanabanjerd who supported this survey and all the people who answered this questionnaire. Last but not least, my thanks are due to the anonymous reviewers of the bulletin for their valuable advice and comments.
- 2) 本稿では次に挙げる(1)~(4)を、まとめて「人称表現/呼びかけ表現」と呼ぶこととする。(1)人称代名詞 personal pronoun 例)[chán] [kháw]、(2)親族名称 kin term 例)[phii]年上への呼称「兄・姉」[nóŋ]年下への呼称「弟・妹」、(3)愛称、名前などの固有名詞 personal names 例)[chúu-lên]「ニックネーム」、(4)職業名称 occupational titles 例)[khruu]「(教職の)先生」[mǔŋ]「医者」。(2)~(4)は文脈により一人称/二人称/三人称として使用される。
- 3) 引用元は、参考文献にある次の教材となる。a=“Thai reference grammar : the structure of spoken Thai (Higbie, Thinsan 2003)”、b= “A Reference Grammar of Thai (Iwasaki, Ingkaphirom 2009)”、c=『タイ語の基礎 増補新版(三上 2014)』、d=『表現を身につける初級タイ語(スニサー2016)』、e=『タイ語 (世界の言語シリーズ)(マラシー、村上 2014)』、f=“way-yaa-kǎn thay (Bandhmedha 2016) 筆者和訳で掲載”

参考文献

- スニサー ウィッタヤーバンヤーン 2016 『表現を身につける初級タイ語』 三修社
- スニサー ウィッタヤーバンヤーン 2017a 「CEFRを参照とした日本人タイ語学習者向け教材に関する考察 -外国語としてのタイ語教育スタンダード開発に向けて-」『東京外国語大学論集』No.94 pp.169-188.
- スニサー ウィッタヤーバンヤーン 2017b 「タイ語教育におけるCEFR適用に向けたタイ語特有の社会・文化的要素に関する考察」『東京外国語大学論集』No.95 pp.233-252.
- スニサー ウィッタヤーバンヤーン 2019 「タイ語での一人称表現に関する意識調査とタイ語教育での課題」『外国語教育研究』外国語教育学会紀要 No.22 pp.99-116
- 鈴木孝夫 1973 『ことばと文化』 岩波書店
- 富盛伸夫、YI Yeong-il 2017 「TUFUS言語モジュールを活用したアジア諸語の社会・文化的特質の指標化」『外国語教育研究』外国語教育学会紀要 No.20 pp.207-217.
- 三上直光 2014 『タイ語の基礎 増補新版』 白水社
- 宮本マラシー、村上忠良 2014 『タイ語 (世界の言語シリーズ)』 大阪大学出版会
- Bandhmedha, Navavan 2016 “*ไวยากรณ์ไทย way-yaa-kǎn thay*” Bangkok. Chulalongkorn University
- Dryer, Matthew S. & Haspelmath, Martin (eds.) 2013 “*The World Atlas of Language Structures Online*” Leipzig: Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology
- Higbie, James, Thinsan Snea 2003 “*Thai reference grammar: the structure of spoken Thai*” Bangkok. Orchid Press
- Iwasaki, Shoichi, Ingkaphirom, Preeya 2009 “*A Reference Grammar of Thai*” Cambridge. Cambridge University Press
- McCready, Elin 2019 “*The Semantics and Pragmatics of Honorification: Register and Social Meaning*” Oxford. Oxford University Press